

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名		部名	生活文化部	
	17028	ごみ溶融処理施設大規模整備事業		課名	環境課 廃棄物対策G	
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	07:低炭素・循環型社会の構築			款	04:衛生費
	施策の方向	03:廃棄物処理施設の適正管理			項	02:清掃費
戦略プロジェクト	-		目		02:塵芥処理費	
事業予定期間	H 27 ~ R 7 年度	主な根拠法令要綱等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律		

目的概要	対象	市民、事業者
	目的概要	<p>平成12年度に稼働した亀山市総合環境センターごみ溶融処理施設について、「亀山市総合環境センター溶融施設長寿命化計画書(平成22年度策定)」に基づき、耐用年数を迎える主要な設備・機器の整備を計画的に行い、令和11年度まで稼働できるよう施設の延命化を図る。</p> <p>平成24~26年度に実施した基幹的設備改良工事に続き、今後耐用年数を迎える主要な設備・機器について平成27~令和7年度に更新・改良工事を実施する。</p>

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
年度計画	年度計画	溶融炉設備 1・2号副資材供給シュート等 溶融物処理設備 1スラグコンベヤ等	溶融炉設備 1・2号副資材上部・下部等 溶融物処理設備 1・2号水砕ピット 灰処理設備 混練造粒機等 電気設備 無停電電源装置	副資材供給設備 コークス受入れホッパ 溶融炉設備 1・2号下部シール弁 溶融物処理設備 スラグ・メタル切り出しゲート 電気設備 非常用プラント動力等	
	年度実績	○溶融設備 1・2号副資材供給シュート等 ○溶融物処理設備 1スラグコンベヤ等	○溶融炉設備 1・2号副資材上部・下部等 ○溶融物処理設備 1・2号水砕ピット ○灰処理設備 混練造粒機等 ○電気設備 無停電電源装置		
事業の計画・実績	計画額	事業費	110,000千円	113,000千円	126,000千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債	82,500千円	84,700千円	94,500千円
		その他			
	予算額	事業費	106,000千円	112,200千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債	79,200千円	84,100千円	
		その他			
	決算額	事業費	105,600千円	112,200千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債	79,200千円	84,100千円	
		その他			
人件費	総人件費	549千円	549千円	0千円	
	一般職員	549千円	549千円	0千円	
	所要人員	0.07	0.07		
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
	総コスト(+)	106,149千円	112,749千円	0千円	
受益者負担率	0.0%	0.0%	0.0%		

			令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	ごみ溶融処理施設 大規模整備工事 進捗率	計画値	34	53
		実施済み事業費/総事業費	実績値	34	43
			単位	%	%
	名称		計画値		
			実績値		
			単位		
	名称		計画値		
			実績値		
			単位		

事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 長寿命化計画策定後9年が経過し、設備・機器の中には製造中止や部品供給停止になったもの、長寿命化計画に位置付けていないが老朽化が著しくなってきたものが見受けられるようになってきた。長寿命化計画を見直し、設備・機器の実情に応じた効率的な整備に努める必要がある。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 溶融施設関連機器定期整備委託業務の中で設備・機器の劣化状況の把握に努め、それぞれの状況に応じた整備を行った。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 年度当初の計画のとおり完成した。日々の溶融炉の運転管理業務や突発的な修繕と連絡調整を図ることで、日常のごみ処理に支障をきたすことなく完成することができた。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 当事業により、老朽化して耐用年数を迎えた主要な設備・機器を整備することができ、施設の適正管理と安全安心で効率的なごみ処理が可能となった。	A 十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 長寿命化計画策定後10年が経過し、設備・機器の中には製造中止や部品供給停止になったもの、長寿命化計画に位置付けていないが老朽化が著しくなってきたものが見受けられるようになってきた。毎年実施している溶融施設関連機器定期整備委託業務で対処できる軽微な整備は順次進めていくが、そうでないものは長寿命化計画を見直し、設備・機器の実情に応じた効率的な整備を進める必要がある。	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 設備・機器の中で、製造中止や部品供給停止になったもの、長寿命化計画に位置付けていないが老朽化が著しくなってきたものなど溶融施設関連機器定期整備委託業務では対処できないものを精査し、更新時期や内容を検討する。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 長寿命化計画を見直すことで、設備・機器の実情に応じた効率的な整備が可能となり、施設の適正管理と安全安心で効率的なごみ処理が可能となる。	
対応時期		通年	

【1次評価者】	生活文化部 環境課 廃棄物対策グループリーダー 山際 文則
【最終評価者】	生活文化部 環境課長 村田 博

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A	A	
	成果	A	A	A	A	

令和2年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		112,200 千円
内訳	令和元年度からの繰越額	千円
	令和2年度の最終予算額	112,200 千円
	令和3年度への繰越額	千円